

## 沖縄県振興審議会第2回観光・交流産業部会

日時：平成29年2月14日(火)10:00~12:00

場所：県庁6階第2特別会議室

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 沖縄21世紀ビジョン基本計画改定(案)の意見に対する県の対応等について

○事務局説明 資料7, 8

#### (2) 審議

○琉球料理のユネスコはぜひやっていきたい。

フォレストツーリズムについて、従来のエコツーリズムの中から、さらにフォーカスして、新しいスタイルとして、言葉としてつくり上げる必要があるだろうなということで提案した。これは欧米豪のインバウンドの旅の達人たちはとても人気のあるツーリズムになっているから、さらに推進できるのではないかという意見。

3ページのホテルアカデミーはぜひやるべき、これは既存の大学、専門学校との整合性は間違いなく問われると思う。その枠組みの中に入れるよりも、観光人材に必要なのは、観光行政にかかわる人材、そして地域貢献型の観光人材、そして観光企業への貢献をする人材、大体3つのパターン。大学等でやるアカデミックツーリズムを学んだ学生たちは、観光行政に行くべきだと思う。より専門的な、沖縄で観光を学ぶという意味での学校をぜひつくってみたい。

○スポーツに関する内容の記載は、目次にあったほうが開いて見やすいし、開いてわかりやすいので、その挿入をお願いしたい。ぜひ再度、検討をいただきたい。

2020の東京オリンピックに向けてのいろんな合宿や沖縄県からの派遣、選手を育成する、輩出する面でも今後、オリンピックまではいろんな形での表現を少しずつ変えていかないといけない部分は出てくるだろうと思う。どういうふうになるかは、動いてみないとわからない部分もある。

○空手会館の完成に伴って、空手の発祥地沖縄が世界の架け橋となるには、やはりキーパーソンの育成、特に世界にネットワークを持つキーパーソン、ネットワークのノウハウを熟知したプロデューサーの育成が必要。国際的な指導者の育成が急務。

また保持者認定はぜひ明記していただきたい。

沖縄の伝統空手をユネスコへ登録することによって、沖縄が空手の発祥地であると、沖縄のステータスが上がるものとして、ぜひユネスコへの登録を強く述べていきたい。

不易流行は、車の両輪のごとくお互いに連携して相乗効果及び沖縄空手の文化の求心力を高めていくという考えを持っており、ぜひそうしていただきたい。

○対応の文面でもよろしいのではないかと思う。

文化財保持者の保持者制度については、人づくり部会ということですので、そこでぜひ実現、明記されるように願っている。

○ウチナーンチュの日に関しては、沖縄に関する情報発信ということで、特定しすぎているのではないかというところをコメントしたが、県の対応をお聞きして理解した。

また「ウチナーネットワークのさらなる活用」というところの文言を追加したが、次世代のウチナーネットワークの担い手がどんどん増え、私自身もこれからネットワークを活用した展開に力を入れていきたいと改めて感じた。

○しまくとうばに関する修正を提案する。

その理由は、しまくとうばを聞いて話せる人を増やしていくための目標値が毎年毎年減少している。県の普及継承事業が全く機能していないという深刻な事態に直面している。

原文のままでは事態の深刻さが全く伝わらない。

「しまくとうば普及センター(仮称)」に関連した取り組みを具体化するということで、現状打開策を明確に示すことができる。

○世界のウチナーンチュ資料館みたいなものが設立できないものか。

毎回、世界のウチナーンチュ大会が開催されて、お祭的にはいいんですけども、その次の5年まで何もしないで放っておいていいのか。

もし世界のウチナーンチュ資料館みたいなものがあれば、そこに各国からいろいろな資料を、それこそ1世のころからのものを取り寄せて、そして博物館的な形、そしてまたウチナーンチュ大会があったときに、そこに集えるような、ホームカミングのような場があったほうがいい。

そこで、琉球大学もしかり、名桜大学もウチナーンチュに関する研究を行っている。そしてJICAのノウハウも、もしくは予算も使って、ぜひとも実現するように目指す形で書き加えられないものか。

○文化コンテンツ産業の振興の項目があるが、産業化をぐいぐい進めていくという力強い言葉が並んで大変頼もしいが、暴走すると危険をはらんでいる。「産業化」や「エンターテインメント性を高める」を進めるあまり、沖縄文化本来の魅力が損なわれることがないような配慮が必要。

コンテンツは物ではあるが、文化コンテンツは、やはりかかわる人たちの体や心、それから積み上げてきた時間のようなものを内包しているコンテンツである。そういった人たちが表現するものであるので、事業化する、産業化する際に、現場の声をくみ上げて配慮した形で進めていくことが必要である。「活用」という文言がたくさん並んでいるが、物や人材を使っていく、消費していく産業化ではなく、文化にかかわる人々や文化をつくられてきた先人たちの思いなどに配慮して、協業していくような文言が織り込まれるといい。

○理論面は非常にカバーされているのですが、具体面がすごい弱いなという感じがする。交流する場合にはどういうイベントをするのか。それから先交流する拠点づくり。資料館の活用とか、具体性があればもっとよかった。

○交流は、まさに文字通り、海外からまた沖縄へ来て、沖縄の方々にそれぞれの国の地域の芸術文化を提示してもらおう。両方の行き来がないといけない。ややもすると、交流の場合に、片肺呼吸みたいになってしまって、2つの肺の呼吸がぴったり合うようにしないと、何か海外に出せば、それが交流になっているかというところと違うと思う。

それと県内でも芸能文化が披露されますが、見る人もいつも一緒、ステージに立つ人もいつも一緒というのがあって、行かない方々にこういう催し物があると言ったら、そんなのは知らなかったと言う。つまり、広報が行き届いているか、芸術をつくり上げていく上で、観客がとても大事。県民に催し物があるという情報は提供できる仕組みがなければいけない。

○世界のウチナーンチュに関連して、今回、改定(案)としてウチナーネットワークのさら

なる活用ということで、どういうふう具体的に活用していくのか。しっかり海外のニーズに、日系社会のニーズにも耳を傾けて取り組んでいく。要はデマンドに取り組んでいくという指摘があったと思うが、非常に大事だと思う。

個別具体的な取り組みは今後、21世紀ビジョン実施計画で記載されていくというお話があったが、その中でしっかりと取りこぼしなく、そこに反映していただければと思う。

空手に関連しては、非常に明確になった。

○指導者は空手の技だけではなくて、広く教養を身につけることは当然のことだと思う。海外の方がもし沖縄に来られた場合に、沖縄の歴史や文化、あるいは織物などの工芸等を幅広く身につける、学習していくことが必要。

、ユネスコ無形文化遺産登録に向けてという気運の醸成を図るということで、前向きにぜひ取り組んでいただきたい。

○大型MICE施設を核とした戦略的なMICE振興の記述について、あまりにも記述が細かいのではないか。

○（事務局より）MICEについては、文言整理をしっかりとやりまして、次回に提案させていただきたい。

また外国人の観光客に対する災害時の対応について、改定(案)の中に盛り込むべきなので、次回に提案させていただきたい。

**以上**